

<補足資料>

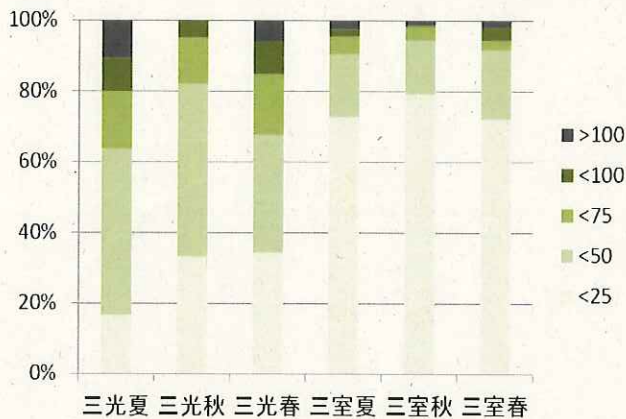
森林総合研究所 関西支所

奥田史郎・諏訪錬平



再生植生高の頻度割合

植栽後一季節目の夏季



三光ではクマイチゴ、ヤマハギ、タラノキ等の陽性の樹種が大きな個体で優占していたが、三室ではミズナラ、ヤマザクラ等の萌芽樹種が(数は多くはないが)大きくなっていた

三室: 25cm以下の低い植生が大半

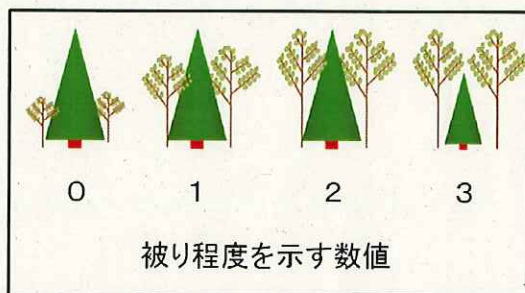
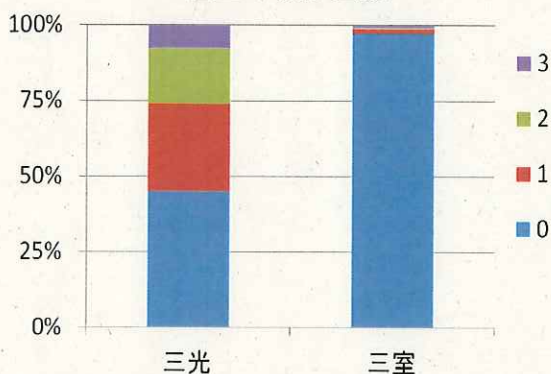
三光山: 植生が大きく50cmを超えるものも20~35%あり

注) 三光山は伐採後しばらく放置、三室は伐採後即植栽



苗木に対する被り程度の割合

植生の被り程度



伐後放置林分(三光、約3年間)では植栽前に除草を実施したにも関わらず、一貫作業地(三室)に比べて再生植生が多く、植栽種苗が周囲植生に**被圧される個体の割合が高かった**

注) 三光山は伐採後しばらく放置、三室は伐採直後に植栽